

慶應義塾大学大学院 文学研究科 修士課程

史学専攻 日本史学分野

3つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー】

史学専攻日本史学分野では、課程修了時に学生が身につけるべき能力として以下のものを定め、学則に従って修了要件を満たし、修士論文審査に合格した学生についてはこの能力を身につけた者と認め、修士（史学）の学位を与える。

1. 日本史学の分野において、通時代的な歴史像の把握の下に研究領域全般に関する専門知識を修得し、古文書などの史料から歴史情報を引き出すための史料批判・読解などの優れた能力を具えるとともに、引き出した歴史情報を分析して新たな史実を実証的に掘り起こし、その成果を論理的に構成して日本語や外国語で発表することができる。
2. 日本史学もしくはその関連分野の研究を内容とする日本語の修士論文を執筆し、さらに修士論文のテーマに関連する領域については包括的で高度な専門知識を有し、その領域の研究に貢献をすることができる。
3. 生のデータの信頼性を確認した上で、それらを分析して論理的妥当性が認められる推論を導き出し、万人の納得を得られるような形でまとめて発表する優れた能力を身につけるとともに、日本の歴史に対する理解を通じて養った、人間の営みと社会の動きに対する幅広い視野と鋭い洞察力をあわせもつことで、高度なリテラシーを具えた社会人、研究者、教育者として、社会に対する独自の貢献ができる。

【カリキュラム・ポリシー】

史学専攻日本史学分野では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として以下のカリキュラムを編成する。

1. 日本史学ならびに古文書学を対象とした少人数の特殊講義ならびに特殊講義演習科目群を開講することで、研究を展開するために必要な専門知識、史料批判と史料読解・分析の能力、思考力および議論構成力を養成する。また、これらを通じて、データの質の吟味、実証的な分析・推論、成果のプレゼンテーションなどの優れた技能の修得を促す。
2. 修士論文の執筆を可能とするため、指定された指導教員が中心となって個別論文指導を行い、研究テーマについての知識を深めるとともに、高度な研究能力と論述力

を養う。

【アドミッション・ポリシー】

史学専攻日本史学分野修士課程では、次のような資質を持つ学生を求めている。

1. 卒業論文執筆や専門科目の履修等を通じて自身の専門領域についての理解を深め、日本史学の領域全般についての基礎知識を有している。
2. 大学院において、何をどのような方法で研究したいのかという研究計画について自ら考え、日本語でまとめることができる。
3. 日本史の史料を正確に読むことができる基礎的な読解力、学術的内容を日本語で論ずることができる基礎的なアカデミック・ライティングの能力を身につけている。
4. 研究成果を発表するための基礎的な外国語の能力を有している。
5. 修士課程修了後の社会人、研究者、教育者としてのキャリアについて、積極的に考えている。